

# 営農支援情報

(第3号)

発行元：ホクレン北見支所 営農支援室

(アドレス:[11einousien@hokuren.jp](mailto:11einousien@hokuren.jp))

～営農のお役に立つ情報をお届けします～

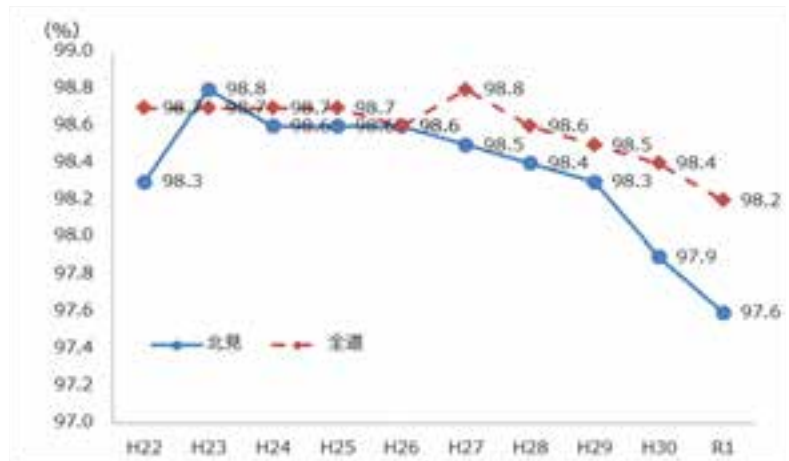
## ●衛生的乳質の向上に向けて 《酪農課》

過去10年間で、北見管内で集荷される生乳において、細菌数1万/ml以下のものの比率は、平成23年度をピークに、平成24年度以降は全道平均を下回る推移となっており、令和元年度においては、ホクレンの全道12支所中11番目の結果になってしまいました。

消費者の食の安心安全への関心が高まる中、この現状は今まで築き上げてきた生乳の北海道ブランドへの信頼を揺るがす事態を招きかねません。

旬検査等で細菌数が上昇したら、決して放置せず、以下の3つのチェック項目を参考に細菌数の削減に取り組みましょう！

図 集荷された生乳における細菌数1万/ml以下のものが占める比率の推移（平成22～令和元年度）



### チェック項目

#### ①搾乳機器の洗浄不良

- ⇒洗剤は濃度を守って使用していますか？
- ⇒洗浄温度は適正ですか？
- ⇒部分的な手洗い洗浄をしていますか？
- ⇒適正な殺菌作業をやっていますか？

#### ②消耗品（パッキン、ミルクホース、ライナー等）の劣化

- ⇒消耗品を定期的に交換していますか？

#### ③不衛生な搾乳作業と牛床・牛体

- ⇒搾乳前の乳頭清拭はきちんと行っていますか？
- ⇒牛床や牛体は汚れていませんか？

生乳は、人にとって栄養豊かな食品であると同時に、細菌にとっても最適な育成環境となります。細菌数を減らすために、細菌を「入れない・増やさない」ことが大切です！

## ● 1 番草収穫とサイレージ調製のポイント 《畜産生産課》

### 1. 雑草が多い場合は早めに収穫しましょう！

- 雑草種子の結実前に収穫しましょう。
- 早刈りにより栄養分や嗜好性を確保できます。

品種	出穂時期
チモシー	6月13日頃
リード	6月上～中旬頃
シバムギ	6月下旬頃

品種	6月6日	6月14日	6月20日
チモシー	51.3%	63.8%	65.7%
リード	59.5%	68.9%	69.5%

※ 網走農業改良普及センターより 2016年A地区調査結果

### 2. 刈取高を 10 cm程度に高めに設定しましょう！

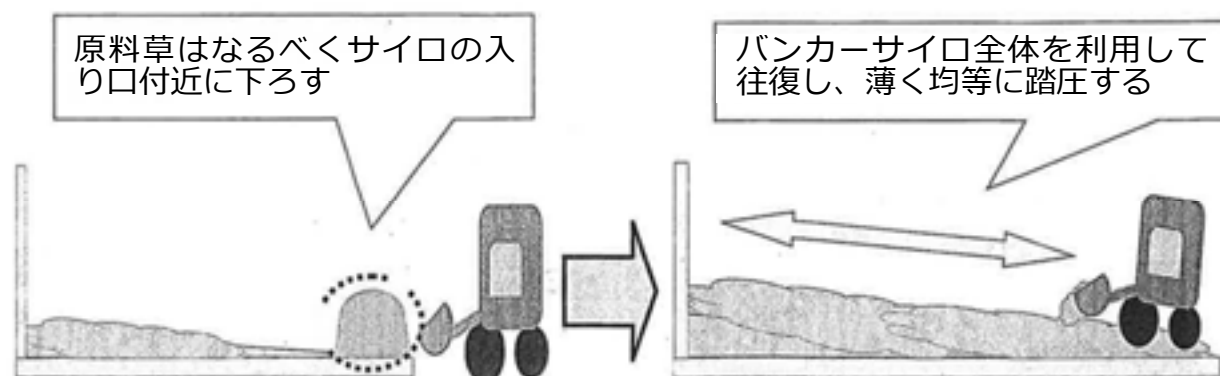
- 土砂の混入を防止し、サイレージの良質な発酵を促します。
- チモシーの損耗や裸地を防止し、草地の荒廃を抑えます。
- 地面を擦らずに刈取り出来るため、刃の損耗を防止できます。

### 3. サイレージ調製前の準備を確認しましょう！

- バンカーサイロや収穫機械は事前に清掃する。
- 収穫機械の点検整備（グリス・オイル等）や刃の研磨を行う。

### 4. 踏圧は基本に忠実にいきましょう！

- しっかり踏む（ダンプ 1 台（10 m<sup>3</sup>）につき 5 分以上目安）
- 薄く踏む（30 cm程を目標に踏む）
- 傾斜を緩くする（傾斜角を 22 度以下とする）



## ●キタネグサレセンチュウ対抗植物

### 「プラテックス アィナ スリゴサ」 えん麦野生種中生品種 《畜産生産課》



左：プラテックス 右：既存品種サイヤー



#### 《「プラテックス アィナ スリゴサ」の栽培方法》

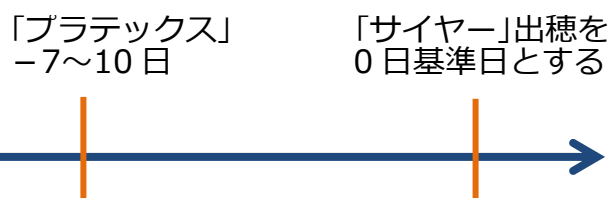
- 播種量 10～15kg/10a（センチウ密度が高い場合は15kg/10a）  
播種期 夏播き（8月上旬～中旬、タマネギやベッド跡などは9月上旬）  
鋤込期 夏播き（10月中旬～下旬） ※ 結実前に鋤込む  
施肥量 N：5、P：5、K：0～5kg/10a  
利用法 休閑利用や秋まき小麦の後作などに

#### 《収量》

夏播種で  
鋤き込める有機物量  
**増加**

夏播種の場合、「プラテックス」は「サイヤー」より**約8%多収**

#### 《早晩生》



「プラテックス」は、「サイヤー」より**7～10日早く**出穂する

#### えん麦野生種の利点

- ① 初期生育が旺盛で栽培しやすい。
- ② ブロードキャスターなどの既存の機械で播種可能。
- ③ 乾物収量が高く、土壌の理化学性を改善する効果が優れている。

#### キタネグサレセンチュウ被害も抑える！

えん麦野生種 (*Avena strigosa*) は、えん麦 *Avena sativa* とは種のレベルで異なる、別の植物です。キタネグサレセンチュウを抑制するのはえん麦野生種のみです。

お問い合わせはお近くの JA・ホクレンまで

## ●アグリポート 25 号を発売 《営農支援推進課》

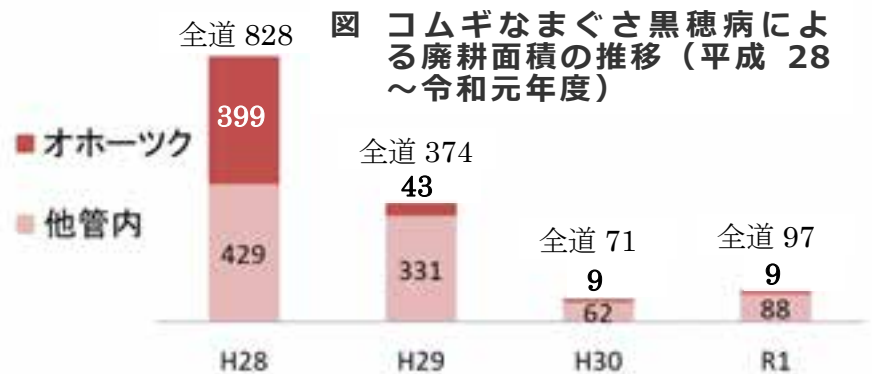
6月1日にアグリポート25号(6,7月号)を発売しました。特集は「防除を考える」です。作物の品質や収量を安定させ、収益を高めるために重要な「防除」。農薬による化学的な防除や、農薬のみに頼らない「総合的な防除」の考え方について紹介しています。

また、今号からページデザインや表紙をリニューアルするとともに、新たなコーナー「道産品のカタチ」を開始しています。このコーナーでは北海道の農畜産物を使用している取引先や商品にスポットを当て、商品に込める思いや北海道産農畜産物の評価、生産者への期待などを掲載していく予定です。第1回目は株式会社ローソンの「おにぎり」。ぜひご覧ください。



## ●コムギなまぐさ黒穂病のまん延防止に努めましょう！

コムギなまぐさ黒穂病の発生および被害面積は、地域および各方面のご努力により減少傾向にあります。しかし、依然再発を含めて発生が確認されており、油断せずに対策を継続することが必要です。



**薬剤防除を実施した圃場でも油断禁物！日常的な圃場観察で早期発見に努めましょう！**

万一、発生が疑われる状況を確認したら、JA や最寄の普及センターに連絡を！  
詳しい病害の情報は、北海道病害虫防除所 HP「コムギなまぐさ黒穂病 Q&A 集」で。

内容に関してのお問合せやご意見につきましては、ホクレン北見支所営農支援室(担当:川口)までメールにてお願いいたします(11einousien@hokuren.jp)。